

Tipeshwarのトラ ©WTI

トラ製品、アジア各地の闇市で販売

トラを絶滅に追いやっている最大の脅威は密猟です。トラの毛皮、爪、歯、虎骨酒などの需要は相変わらず多く、違法なトラ製品がアジア各地で闇に隠れて売られています。インドやバングラデシュ、ブータン、ネパールで密猟されたトラは、ヒマラヤを越え中国やベトナムにわたるというルートがイギリスのNGOであるEIAにより指摘されました。野生のトラはインドネシア、マレーシア、ミャンマー、タイ、ロシアでも密猟され、中国へ入っていきます。また北朝鮮も主要な虎骨酒の産地として浮上してきました。インドネシアにはトラの毛皮、歯、爪、ひげなどの闇市場があり、それらの一部は繁殖施設のトラからのものです。タイの繁殖施設のトラはラオスのトラ繁殖施設に送られ、それらから製造されたトラ製品が基本的に中国や、施設を訪れた中国人観光客に提供されています。中国やベトナムの国内にある繁殖施設でもトラ製品が違法に売られています。2018年の調

査では、ベトナムで販売されていた中国語表記のある虎骨酒が、DNA鑑定により本物のトラと判明しました。同様に、北朝鮮では中国のSNSオークションサイトでハンゲル、英語、中国語表記のあるラベルを付けられた虎骨酒が、「平壤大学医学部で醸造された」という説明付で販売されていました。この調査では、ミャンマーで製造された虎骨酒や、「ベトナム虎骨酒」という中国語表記のラベルが付いた虎骨酒が、中国のサイトで販売されていたことも把握されています。

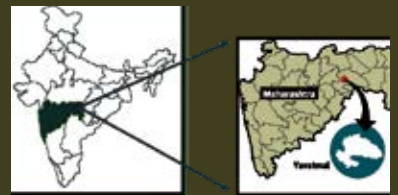
インドでは自然死したトラと密猟されたトラの数とが、NGOにより記録・公表されていますが、他の国々では把握もされていないのが現状です。

延期されていたワシントン条約締約国会議が8月17日からジュネーブで開催されることに決まりましたが、トラ生息国・消費国にトラ保全への真剣な取組みを促していきたいです。



ティペシュワール野生生物保護区 in マハラシュトラ州

地球上に3500頭もいないと言われている野生のトラ、その約半数がインドに生息しています。JTEFの活動地、ティペシュワール野生生物保護区も148.6 km²という小さい保護区でありながら、様々な植物相が、30種の哺乳類、渡り鳥を含む160種の鳥類、26種の爬虫類、4種の両生類、多種におよぶ魚類、無数の昆虫を支えています。とはいえインドは人口が多く、この保護区周辺の森林にも多くの村があり、たくさんの方が暮らしているので、トラの保全活動はトラと隣り合って暮らしている地域住民の協力なしには成し遂げられない状況にあります。



ティペシュワール地図 ティペシュワール野生生物保護区

問題をおこした メストラの駆除

私たちが活動を開始する以前から、ここは、保護区管理の不備と住民の知識不足から、トラとの軋轢が頻繁に起きているという大問題を抱えていました。わずか15か月で家畜が44頭も殺されただけでなく、人間が7名も被害にあったのです。しかも、殺された7名のうちの5名から同じメストラのDNAが発見されたために、村人たちは激怒し、そのトラを殺すように強く要望しました。が、その最中に新たに3人の死亡者が出る事態となりました。この3人は牛飼いでしたが、このメストラと1歳になる2頭の子トラがこの地域でハンティングをしていたときに襲われました。そこで村人たちは殺気立ち森林局の車に火をつけるなど大騒動となりました。あわてた森林局はハンターを雇い、そのメストラを殺し、村人たちは一安心したのですが、その後すぐにこのハンターを雇った手順がきちんと法に則ったものではなかったこと、加えてそのハンターは銃刀法違反、薬物所持違反もあったことがわかり、森林局に対する村人の不信感はずっと高まったのです。この事件は多くのメディアも注目していました。



殺されたメストラ

この様な状況下で、殺されたメストラの2頭の子トラたちも殺すという議論がされ始めていました。JTEFの現地パートナーのWTIはこの事件を最高裁判所に継続的に働きかけ、一方で森林局にはきちんと対応するように求めました。また、村人たちの間でパトロール隊を結成し、ワークショップを開いて自分たちでも村を守る行動を



牛飼いと若者のためのワークショップ

起こすように奨励しました。地元の人たちにトラと共存して生きていくための具体的な行動を提案したのです。

森林局がきちんと機能していたら、また村人がトラとの共存を理解していたら、死亡者があれほどの数にはのぼらなかつたでしょうし、メストラを殺すことも無かつたかもしれません。非常に悔しい出来事でした。オスの子トラはまだ捕獲されていませんが、メスの子トラは捕獲され、殺されることなくペンチ国立公園に移されてモニタリングされていることが、せめてもの救いです。



殺されたメストラの子トラ

安全対策として、パトロール中にトラを発見した場合やトラが牛に飛びかかったりした場合等、人々に知らせるための笛を配布しました。村人たちはパトロールで分かつたトラの動きを森林局に定期的に報告し、監視を続けています。この対策を整えて以来、この地域では牛の被害は起きていません。

野生生物保護区での山火事

昨年は山火事が例年になく数多く発生しました。中央インドでは地元の人々がテンドゥという木の葉が集め、タバコをまくためのロール紙として使用し、地元のタバコとして販売されています。村人たちはしばしば森に入り、落ちた葉を簡単に集めるために臨床を燃やします。夏のこの時期にはこのための森林火災が穏やかに行われています。しかし、一部の地域では密猟活動をやりやすくするために、森林火災が故意に引き起こされていることに森林局が気づきました。ティペシュワールの150ha以上のコア面積やタドバ・アンドリトラ保護区の緩衝地帯では3日間連続して発火しました。その際、JTEF-WTIのワークショップで訓練された20人の自然ガイドが消火に重要な役割を果たしました。森林局は、問題を起こしたトラや森林火災を、タイムリーに森林部門へ報告を行った住民自然ガイドの熱心な活動を称賛しています。



山火事

高压電線による野生動物への被害

今までも保護区外で人や家畜との接触が多いトラに対し、村人が報復として、殺された家畜に毒を塗ってトラの戻ってくるのを待ったり、罠をかけたりにしていましたが、最近では440ボルトの高压電線で瞬時に動物を感電死させるやり方が増えています(日本で農作物被害のために用いられているショックを与える程度の電気柵とは全くの別物です)。作物をイノシシやニルガイ、シカ類などから守るためにこの



地元の若者から成る自然ガイドと森林局との協力体制のもと、トラとの共存へ第一歩を踏み出したのは大きな成果です。ガイドたちのモチベーションをさらに高めるために、今期もフィールド装備(Tシャツ、帽子、



2018年3月末に送った装備

靴など)を贈り、野生動物の感電撲滅活動に必要な技術のトレーニングワークショップを開催したいと思います。これらの費用に、ぜひご協力をお願いします!

電線で畑のフェンス周りを囲うのですがナカグマ ヒョウ トラなど偶然に犠牲になっています。さらに問題なのは、地元の人、特に牛飼いは家畜を殺したトラへの報復手段として意図的にこの「武器」を用いるようになったことです。そして、トラの密猟者がこの高压電線を好んで使うまでのところまでできています。



農にかかったトラ

そこで、JTEF-WTIは森林局と共に、名誉保護区長のラムザン・ピラニ博士の参加を得て、森林スタッフに向けて初めての野外ワークショップをティペシュワール野生生物保護区で開催しました。マハラシュトラ州電力配電会社(MSEDCL)にも参加を求めています。同じ内容のワークショップがここ以外に、Parawaやandharkawadaでも開かれ、合計107名の最前線で働く森林警備員、担当官、日常的に森林に入る労働者、および電機部門の現場スタッフ等が参加しました。その地域での動物の移動、確認されたホットスポットや今後予想されるホットスポットの位

置情報も共有されました。ピラニ博士は巡回中の感電事故を防ぐための予防策実施の手順書と現場スタッフによる現場での活動に焦点を当てて解説を行い、WTI中央インド・トラプロジェクトのリーダーであるプラフラー・バンブルカー氏は、「感電」撲滅の取組みは、密猟と同様、戦闘と考えるべきだと強調しました。このワークショップは森林局からも電力委員会からも、現場で共同パトロールや監視を行うための関係機関の間の合意形成に役立ったと、高く評価されました。



*この活動は、地球環境日本基金の助成を得て行っています。



トラ・ゾウ保護基金
お薦めの本



ナショナルジオグラフィック キッズ
ミッション・ゾウ・レスキュー
(ハーパーコリンズ・ジャパン)
5月新刊

アフリカゾウもアジアゾウも、たくさんの生きものたちと大自然を分かちあっている。ゾウを絶滅させてはならない！ゾウを守ることは、地球を守ることなのだから。トラ・ゾウ保護基金も制作に協力し、その活動も紹介されています。

著者：アシュリー・ブラウン・ブリュエット
日本版企画監修：田中直樹(ココリコ)
定価：本体1,600円(税別)

ナショナルジオグラフィック キッズ
ミッション・トラ・レスキュー
(ハーパーコリンズ・ジャパン)
3月新刊

トラを知らない人はいない。でも、野生にはたった4000頭しかいないって知っていた？人間による密猟や、森林伐採が原因だ。絶滅したら、なにが起きる？どうすれば絶滅を防げる？トラ・ゾウ保護基金も制作に協力し、その活動も紹介されています。

著者：キットソン ジャジンカ
日本版企画監修：田中直樹(ココリコ)
定価：本体1,600円(税別)

牙：アフリカゾウの「密猟組織」を追って
(小学館) 5月新刊

元アフリカ特派員の筆者は、密猟で動くカネが過激派テロリストの資金源になっている実態に迫り、背後に蠢く中国の巨大な影を見つける。そして問題は、象牙の印鑑を重宝する私たち日本人へと繋がっていく。選考委員満場一致の第25回「小学館ノンフィクション大賞」受賞作。

2016年南アフリカで開催されたワシントン条約会議の取材には、トラ・ゾウ保護基金が協力。本作の中にも登場。

著者：三浦英之
定価：本体1,600円(税別)

イベント 2019
INFORMATION

JTEFのウェブサイト
リニューアルしました！

情報充実+スマホ対応
+オンラインでのご寄附も便利に。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

JTEFの活動を
ご支援ください！

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時寄附の
★お支払方法★

JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単に寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。

ゆうちょ銀行

口座番号：00170-7-355897

加入者名：トラ・ゾウ保護基金

JTEFを支えるチャリティパーティー

7月6日(土) 18:00～20:00 (17:30開場)

場所：ピヤステーション恵比寿

主催：JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会

「世界トラの日」イベント

7月28日(日)

場所：上野動物園

JTEFトラ保護応援グッズの販売など。

*時間は未定ですが、日中の実施となります。猛暑日になりそうな場合は、来場者の安全確保のために中止になることがあります。

「世界ゾウの日」イベント

8月12日(休日の月)

場所：上野動物園

JTEFスタッフと上野動物園ゾウ飼育担当者とのゾウ保護トーク、JTEFゾウ保護応援グッズの販売など。

*時間は未定ですが、グッズ販売は午後5時頃にはスタート、トークは6時30分頃の開催となります。

ナマステ インディ2019

9月28日(土)・29日(日)

場所：代々木公園B地区

JTEF保護活動パネルの展示、保護応援グッズの販売など。

ディワリ・イン・ヨコハマ
2019

10月の土日2日間(日程は未定)

場所：山下公園

JTEF保護活動パネルの展示、保護応援グッズの販売など。



去年の様子



認定NPO法人

トラ・ゾウ保護基金

<http://www.jtef.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel: 03-3595-8088 Fax: 03-3595-8090
E-mail: hogokikin@jtef.jp <http://www.jtef.jp>
郵便振替口座：ゆうちょ銀行 口座番号) 00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.33
発行日：2019年6月28日
発行人：戸川久美
編集：戸川久美
デザイン：土肥優子